

代 表 者

視 察 報 告 書

令和 元年 6 月 5 日

会 派 代 表 者 殿

呉市議会議員

沖 田 範 彦

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 研修期日

令和元年5月29日（水）～30日（木）

2. 調査項目

愛知県名古屋市 東山動植物園 世界のメダカ館・自然動物館について

奈良県郡山市 郡山金魚資料館について

3. 参加議員

沖田範彦議員

愛知県名古屋市

■調査項目

東山動植物園 世界のメダカ館・自然動物館について

■調査対応者

市立東山総合公園 東山動植物園副園長 茶谷 公一

市立東山総合公園 東山動植物園管理課係長 佐藤 貴嗣

■調査期日

令和元年5月30日(木) 9時～11時

■調査目的

呉市の観光振興との関連性の調査。

■視察内容

東山動植物園は、昭和12年に約60haの面積を有する東山公園内に植物園を開設すると同時に他地区にあった動物園を移転し、動植物園としてスタートした。

平成元年、市制100周年を記念し、展望塔と自然動物園を整備し、コウモリやツチブタ等夜行性小動物やワニ、カメ等熱帯動物の飼育展示を始めた。平成5年には旧水族館の老朽化に伴い、メダカをテーマとした新しい水族館をオープンさせ、国内希少淡水魚の飼育繁殖に取り組むとともに名古屋大学と連携し、世界のメダカに関する調査研究と生息地調査を行っている。

現在では、魚類201種、その他14種を飼育展示しているとのことで、イタセンパラ、ネコギギ等の国内淡水魚の繁殖と種の保存にも力を入れている。

同園には年間250万人の入館者があり、そのうち、1割から2割の人がメダカ館を訪れているそうであり、中でも、メダカは小学2年生と4年生の教科書に取り上げられていることもあって、小中学生の利用が多く、また、サマースクールや環境授業に活用されている。普及啓発のために取り入れている名古屋メダカ里親プロジェクト事業では、自宅でメダカを飼ってもらい、繁殖等を楽しんでもらうことが人気を呼んでいる。

奈良県郡山市

■調査項目

郡山金魚資料館について

■調査対応者

(有) やまと錦魚園 代表 嶋田 輝也

■調査期日

令和元年5月30日(木) 14時30分～15時30分

■調査目的

呉市の観光振興との関連性の調査

■調査内容

大和郡山市は金魚が泳ぐ城下町として売り出しており、「金魚のふるさと」として、金魚の品評会や金魚すくい等を行い、観光の目玉としている。

柳澤吉里侯が甲斐の国から入部したときから始まったと言われている。

原産は中国、フナの中から派生したもので、室町時代に渡来し、珍奇な愛玩物として飼われ、明治に入って庶民の間で流行していった。

大和郡山では、幕末のころ、藩士の副業とされていたが、維新後は藩士だけでなく、農家の副業としても盛んになっていった。昭和40年代ころには国内だけでなく、広く海外にも輸出された。近年は生産者も減少し、10社くらいとなっているが、年間6,000万匹が生産されている。奈良県は金魚を「県のさかな」として選定し、また、「金魚の父」と言われる松井住一博士を顕彰した記念館を設立し、その業績をたたえ、後世に伝えている。

最近、金魚の展示は盛んに行われてきており、京都水族館での特別企画展（オリックス博物館事業部運営管理）や大阪万博公園跡にできている水族館での企画展、また、アートアクアリウム社によるイベント等で活用がされている。

■呉市での展開の可能性

大和ミュージアムに年間100万人の方が訪れているが、この人たちがあと1～2時間でも滞在してもらえることを考えていくべきである。

そのために何か仕掛けていくべきであるが、その一つとして、今回視察したメダカ、金魚、鯉等の色鮮やかな淡水魚専門の水族館が近くにあれば、観光客の足止め効果が期待でき、活性化の一助となると思う。

オリックスが、このような取り組みを事業として行っているようで、打診してみてもどうか。